

「盆栽」

～世界が夢中！ 命ある芸術のガイディングをマスター～

2022年12月2日(金)・4日(日) JGA 第一支部研修修了報告



12月2日(金)4日(日)の2日間にそれぞれ江戸川区の春花園 BONSAI 美術館において JGA 第一支部盆栽研修が行われました。幸いお天気に恵まれ、午前中は緑濃い松柏類の盆栽を中心に庭園内でたっぷりお話を聞きました。

参加者は12月2日 午前15名(会員12名、非会員3名)、
午後は8名(全会員)

12月4日 午前15名(会員10名、非会員5名)、
午後は7名(会員6名、非会員1名)

時間は2日、4日とも 午前9:30～12:00, 午後13:30～16:00

盆栽園としては十分な大きさですが、何十(百)年生きて来た貴重な盆栽が置かれた棚の間を歩きながらの研修ですので、定員を最大15人とせざるを得ませんでした。 写真を撮る時も要注意要注意。



講師は同美術館館長の神 康文(じん やすふみ)氏。 盆栽園園主の小林罔男氏の傍らで長年盆栽に触れて来た方です。

お話のある屋内の棚には、お茶の木の盆栽とかりんの実のしつらえ。「今日は一日ごゆるりと。」の講師のおもてなしの心と、喉が大事な私たち通訳案内士への心遣いがさりげなく表現されていました。後半の座敷飾りに表われるしつらえの心に通じるものがありました。

午前の入門編では、1970年の大阪万博に出展されたという「華巖」と名付けられた大きな松柏の盆栽を前に、他の芸術と違い時を経て変わっていく姿を写真でみせていただくことから始まりました今まで高価な盆栽を完成した姿として見てきましたが、盆栽作家・職人さんたちがそれぞれの感覚で仕上げている生きた芸術、と改めて感じました。



午後は、形を整える針金のかけ方の体験。ちょっと手にするだけでも、ただ見ているのと違うことを体験。 整えた小さな宮島五葉松をミニ床の間で配置を考えました。また実際に床の間に飾られた総合芸術のひとつの要素としての盆栽を見るのも楽しい時間でした。



運営委員作成の盆栽の基本の資料から発展して、実物を見ながら過ごす時間は贅沢なひと時の研修となりました。

JGA 第一支部 盆栽研修担当